

友の会だより

No. 66

埼玉県ふじみ野市長宮 1-2-11
Tel.049-261-6065

「人のため我が身削りて努力せば、回り廻りて末は我が為」

会 長 須藤貞之

上記の歌は、今から60年以上前、私が中学生の時に聞いた話に出てくる澤村勘兵衛勝為の辞世の歌です。

およそ350年前（慶安3年6月）雨が全く降らず、いわき地方は大干ばつに見舞われていました。農民は、水田の用水を天水（雨水）や近くの沢水を貯めたため池に頼るしかなく、日照りが続くと作物はすぐに被害をうけ、農民たちはそのたびに大きな苦勞と貧困に見舞われていました。磐城平藩の郡奉行であった澤村勘兵衛勝為が藩主・内藤忠興の命令で被害の様子を調べていた帰り道、泉崎の光明寺の住職から、日照りから作物と農民を守るために「下小川の関場より、平久保（現在は平窪）を堀り、神谷（かべや）、泉崎を通し仁井田、四倉と山の裾を引いたならば、必ず水は流れる」と歌で示され工事に取り掛かったと言われています。この工事によってできたのが小川江筋で、小川町の関場から夏井川の水を取り、水路の長さはおよそ30キロメートル、山際を通り、約1200ヘクタールの水田を潤し、平、四倉を通して仁井田川につながっている。現在は水道水としても使われているそうです。

この工事は大変難航したそうで、ある所では水漏れが酷く中断しなければならぬかと悩んだそうですが、母親から水漏れの所に真菰を敷きその上に土を被せれば大丈夫だと教わり、またある所では、おびただしい数の蛇が出て、皆な恐れをなして工事が出来なくなったそうですが、蛇塚を作り供養をしたら蛇も出なくなったそうです。難航した工事も何年もの年月を掛け完成し、水を引いた事で、新たに何枚かの水田が開墾され、その水田の一部を寺に寄進したそうです。そのことが基になり、仲間の中傷により勘兵衛勝為は、切腹をさせられたそうです。

切腹の辞世の歌が、表記歌です。

現在は、下神谷に澤村神社が建てられ地元の人達に「澤村様」とあがめられています。60年以上も前に聞いた話なので間違っただけ記憶しているかも知れませんが今も何かあるごとに頭の隅を過ぎります。

学徒が語った「陶器製の手榴弾と地雷」

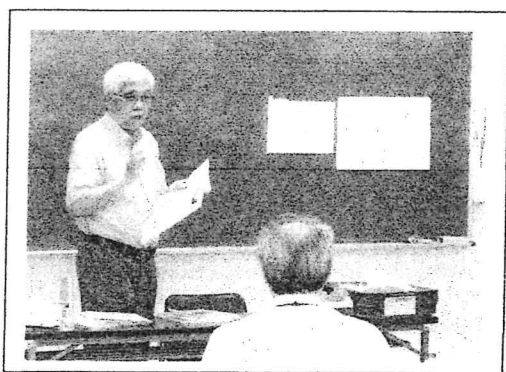
—陸軍造兵廠と浅野カーリットに関連して—

講師 高木文夫さん（ふじみ野市文化財保護審議会保護審議会
委員委員・元上福岡市立歴史民俗資料館館長

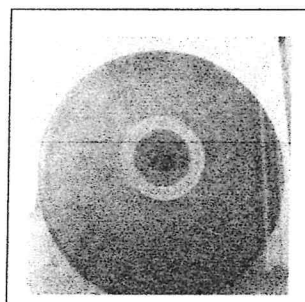
令和元年8月24日（土）午後1時30分～午後3時30分

上福岡歴史民俗資料館研修室で行われました。参加者は、34名と予想よりは少ない人数でしたが、内容としては良かったと言う声が多かった。

昭和58年上福岡歴史民俗資料館の開館以降、造兵廠の調査や資料収集を行い、平成17年造兵廠下請け工場の浅野カーリットの現地調査や学徒などからの聞き取り調査をしたそうです。平成20年7月川越市から委託された「さいたま民俗文化研究所」の調査員として浅野カーリットの調査を実施したそうです。それらの資料を基に講演をして頂きました。



講演のイメージ



陶製地雷

陶製地雷（陸軍兵器名「三式地雷」）の製造は昭和18年頃から地雷本体になる薬缶（やくきょう）が、信楽（滋賀県）や丹波（兵庫県）などで陶製されたという。翌年から地雷薬缶の火薬詰めを、東京第一陸軍造兵廠川越製造所製造所と下請けの下請けの浅野カーリットで行っていた。昭和19年9月から翌年8月15日の終戦まで、川越高等家政女学校（現山村女子高校）一年生40人の学徒（14歳）が浅野カーリットに動員された。すぐに陶製地雷の製造に入り、昭和20年3月まで7か月余り陶製地雷の製造にかかわった。約4万個の陶製地雷を造ったそうです。昭和20年4月から終戦までは、地雷の材料が無くなり陶製地雷に代わって陶器製手榴弾の製造になったそうです。

◎企画展示説明会開催

令和元年度ふじみ野市最新出土品展

—縄文土器の世界—

令和元年9月13日 午後1時30分～午後3時30分

教育委員会 社会教育課埋蔵文化財保護担当 岡崎学芸員さんに説明をして頂きました。当初約1時間の予定でしたが、好評により質疑応答が長引き2時間近くかかりました。有難うございました。

西の原遺跡にある縄文時代の住居跡の発掘調査により出土した縄文土器や石器の展示でした。このすまいの特徴は、煮炊きをする炉は、土器の底部を打ち欠いて床に埋めた「埋甕炉」を使っていたことだそうです。建て替えも行われていた事も分かったそうです。また、まとまって縄文土器が出土した事も珍しいようです。石器や耳栓も出土して展示してありました。耳栓は、装飾に使われていたようです。

友の会相互学習会開催される。

トイレの歴史と四方山話

～おもしろ考古学 外国編・その他～

講師 (友の会運営委員) 射田 昭男さん

令和元年11月17日(日) 午後1時30分～午後3時30分

世界では、26億の人々が自宅にトイレが無い、10人に4人がトイレのない暮らしをしており、10億人以上の人々が毎日汚染された水を飲んでいる。飲み水の汚染と下水道の不備のため、毎年180万人の子どもが犠牲になり、その数は、世界各地の武力衝突やテロ事件などの犠牲者数を上回っている。

諸外国のトイレ事情

一口にトイレと言っても、民族というか、国によって、地域によって、形態がさまざまに違い使われ方も違う。また清潔、不清潔といった感覚も、民族によって違うらしい。

時代も古代ローマ時代のトイレから、中世ヨーロッパ、近世ヨーロッパのトイレ事情を話して貰いました。今では、健康チェックトイレもあるようで、座って排尿すると、自動的に尿中のブドウ糖・タンパク・ウロビリノーゲン・潜血の測定をし、左手側のリングに指を入れると血圧も測れるそうです。2時間に及ぶトイレについて話して頂きました。

友の会活動報告(令和元年4月～9月)

平成31年4月27日(土)、第34回友の会総会総会開催
総会終了後 談話会を開く

平成31年5月1日 令和に年号が代わる

令和元年5月4日(土)第1回定例役員会開催 研修室

令和元年6月1日(土)第2回定例役員会開催 研修室

令和元年7月5日(金)第3回定例役員開催 13:00～研修室

令和元年8月4日(日)第4回定例役員開催 10:00～研修室

令和元年8月24日(土) 13:30～

ふじみ野市上福岡歴史民俗資料館・同友の会共催講座

「学徒が語った「陶器製手榴弾と地雷」

——陸軍造兵廠と浅野カーリットに関して——

講師 高木文夫さん

令和元年9月1日(日)第5回定例役員開催 10:00～研修室

令和元年10月4日(日)第6回定例役員開催 10:00～研修室

友の会作品展を開催します

開催期日：令和2年3月3日(火)～令和2年3月8日(日)

午前9時～午後4時

場 所：上福岡歴史民俗資料館 二階研修室

搬 入：令和2年3月2日(月)午前9時30分～

搬 出：令和2年3月8日(日)午前9時30分～

展示作品申し込み締め切り：令和2年2月22日(土)

問い合わせ先：須藤(☎)

【編集後記】先日、浦安に行く機会がありました。浦安は漁師町と聞いていましたが歩いているとそのような感じはしませんでした。昭和時代の内科・小児科の医院の建物が残っており、無料で一般解放していました。診察室も調剤室も今も診察をしている様な状態で保存されていました。平成の初めまで診療をしていたとの事でしたが子どもの頃、村に一軒あった診療所を思い出し郷愁を覚えたひと時した。友の会便りNo. 66号をお届けします。

寒い日が続いております。会員の皆様ご自愛ください。

編集子